

【マイシェルター】 Sorun security tool

MySHELTER

Ver1.06B



【マイシェルター】 Sorun security tool

MySHELTER

利用者ガイド

Ver1.06B



2005 年 8 月
ソラン株式会社

【目次】

1. 背景及び目的	4
2. ソフトウェアの概要	4
3. ソフトウェアの特長・用途	4
3.1. 特長	4
3.2. 用途	5
4. 動作環境	5
5. プログラム一覧	6
6. 操作手順	7
6.1. あなたのキーを作成します	7
6.2. ユーザ情報設定ファイル(pscrypt.ini)の保存方法	12
6.3. ファイル、またはフォルダごと暗号化・復号化を行う	13
6.4. メモリデバイスのキー情報をパソコンに反映する	17
6.5. 暗号化・復号化先のフォルダを指定する	18
6.6. グループ機能を使用する	19
6.6.1. グループ間共有キーを作成する	19
6.6.2. グループ間共有キーを削除する	21
6.6.3. グループ間共有キーを変更する	21
6.6.4. グループ間共有キーのパスワードの確認をする	22
6.6.5. グループ間共有キーを使用する設定を有効にする	23
6.6.6. グループ間共有キーを使用して暗号化する	23
6.6.7. グループ間共有キーを使用して復号化する	24
6.6.8. グループ間共有キーの再作成をする(キー新規作成時)	25
6.7. マイシエルターの暗号化・復号化機能をロックする	27
7. オプション機能を使用する	28
7.1. 「SendTo にマイシエルターのショートカットを作成する」	29
7.1.1. 設定方法	29
7.1.2. 使用方法	30
7.2. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」	31
7.2.1. 設定方法	31
7.2.2. 使用方法	32
7.3. 「ダブルクリックで開いた暗号化ファイルを保存時に自動的に暗号化する」	33
7.3.1. 設定方法	33
7.3.2. 使用方法	34
8. 困った時には・・・	37
8.1. パソコンからあなたのキー情報を削除したい	37

8.2. メモリデバイスを紛失してしまった	38
8.3. メモリデバイスを紛失し、かつパスワードも忘れてしまった	39
8.4. プログラムファイルを暗号化してしまった.....	39
8.5. 複数のメモリデバイスに同一のキーが作成されている.....	40
8.6. 「pscript.ini」(ユーザ設定ファイル)の内容を変更してしまった	40
8.7. 新規パソコンでグループを追加したい.....	40
8.8. 他のパソコンで自分のメモリデバイスを挿して、暗号化・復号化したい.....	41
8.9. パスワードが盗まれたので、変更したい	41
8.10. パソコン上のキーが漏洩したため、パソコン上のキーを変更したい.....	42
8.11. 新規パソコンで既存のメモリデバイスキーの内容をすべて破棄し、新しい環境を 作りたい.....	42
8.12. 新規パソコンで既存のメモリデバイスキーの内容のうち、グループだけを残して個人キーを変更したい.....	42
8.13. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」オプションが有効にならない.....	43
8.14. 暗号化ファイルをダブルクリックで開いた時にリンクファイルが参照できない.....	45
9. その他.....	46
9.1. 最新版のマイシェルターを取得したい	46
9.2. 期間限定版からライセンス版に変更したい.....	46
9.3. ユーザ登録を行う.....	46
9.4. セキュリティの警告を解除する.....	46
10. 問い合わせ先.....	47

1. 背景及び目的

昨今、パソコン(特に携帯を行うノートパソコン)の利用拡大により、機密情報・個人情報を持ち歩くケースが増えていきます。そのため、パソコン盗難等による情報漏えい対策が、企業にとって大変重要な意味を持っています。そこで「データを暗号化する」等の情報保護を行うための仕組みが必要となります。

その解決策のひとつとして、暗号と鍵の組み合わせによる、安全にデータを保護する仕組みを提供いたします。

2. ソフトウェアの概要

最近よく使われる USB メモリなどのメモリデバイス(1)、またはフロッピーディスクなど外部のデバイスを利用することで、そのデバイスとパソコンの組合せで「鍵」を作ります。その鍵を使用してファイル単位に暗号化することが出来ます。

復号化するには、その外部デバイスがないと出来ません。外部デバイスをパソコン上のデータを解く「鍵」として利用することが出来ます。

1 メモリデバイス:

パソコンに接続可能な USB メモリ、コンパクトフラッシュメモリ、SD メモリカード、メモリスティック、またフロッピーディスクであれば使用可能です。

3. ソフトウェアの特長・用途

3.1. 特長

- ・ 操作が簡単・・・ ドラッグ＆ドロップにより、ファイル単位またはフォルダごとに暗号化出来ます。
- ・ 広範囲・・・ ファイルの種類を問わず、暗号化出来ます。圧縮したファイルも可能です。
☛ **読み込み専用ファイル、隠しファイル、Windows のシステムフォルダ、及びプログラムフォルダは除く**
- ・ 汎用性・・・ メモリデバイスは、通常の市販品を利用できます。
- ・ 安全性・・・ メモリデバイス内のキーは、パソコン本体内にあるキーで暗号化されています。
そのためパソコン本体とメモリデバイスに格納されたキーが揃わないと暗号化、復号化できない仕組みとなっています。また、ユーザがマイシェルターの暗号化・復号化機能をロックさせることも出来ます。
- ・ 高速・・・ 短時間で暗号化、復号化の処理を行います。
- ・ インストーラ不要・・・ 直接プログラムを実行できます。(パソコンへのインストールは不要)

3.2. 用途

- ・ 営業担当者など、ノートパソコンに顧客情報や、機密情報などを入れて持ち歩く。
- ・ メモリデバイス内のデータを保護したい(紛失や盗難にあっても、読むことが出来ない)。
- ・ ファイルを安全に取引先と交換したい。
- ・ コンプライアンスの一環である「情報セキュリティ対策」のひとつとして利用する。

4. 動作環境

OS: 日本語版 Microsoft Windows2000、WindowsXP (HomeEdition,Professional)
Windows Me、Windows 98 SE、WindowsNT4.0

CPU: Intel Pentium 、Celeron、AMD Athlon 等 300Mhz 以上を推奨

メモリ: 128MB 以上を推奨

利用にあたって必要なもの:

USB メモリなど、パソコンに接続できる書き込み可能なメモリデバイスまたはフロッピーディスク

-- 注意 --

- ・ OS を Windows 98、Windows Me からフォーマットを行わずに Windows 2000、Windows XP に変更した場合、マイシェルダーが動作しない場合があります。
- ・ 一部のオプション機能を使用するためにはパソコンの Administrator 権限が必要です。
詳細は「7.2. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」」「7.3. 「ダブルクリックで開いた暗号化ファイルを保存時に自動的に暗号化する」」を参照してください。

5. プログラム一覧

以下の3つの実行ファイルで構成されています。



「KeyMaker.exe」・・・ キー情報を設定する初期設定プログラムです



「MyShelter.exe」・・・ マイシェルター本体です。通常は、このプログラムを使用します



「Decrypt.exe」・・・ メモリデバイス紛失時のパスワードによる緊急復号化ツールです。
(いざという時のために用意しました。普段は利用する必要はありません。)

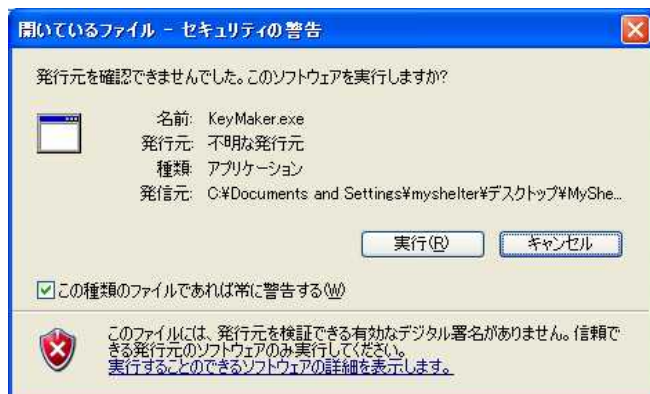
この3ファイルを、パソコンのハードディスク、またはメモリデバイス等、あなたの好きな場所にコピーして準備します。

☛ NT4.0 専用を使用する場合は、“PSAPI.DLL”ファイルが必要となります。同梱の PSAPI.DLL ファイルを、MySHELTER.exe と同じフォルダ、またはシステムフォルダに、コピーしてご使用ください。
(PSAPI.DLL ファイルが無い場合は MySHELTER.exe を起動できません。)

緊急復号化ツール「Decrypt.exe」はユーザ登録後に E-Mail でお送りしております。ユーザ登録は「9.3. ユーザ登録を行う」を参照してください。

各実行ファイルの起動時に以下のセキュリティの警告画面が表示される場合があります。このような場合は「9.4. セキュリティの警告を解除する」を参照してください。

例) KeyMaker.exe を起動した場合



6. 操作手順

キーとは...暗号化・復号化を行なう為の「鍵」のことです。

6.1. あなたのキーを作成します

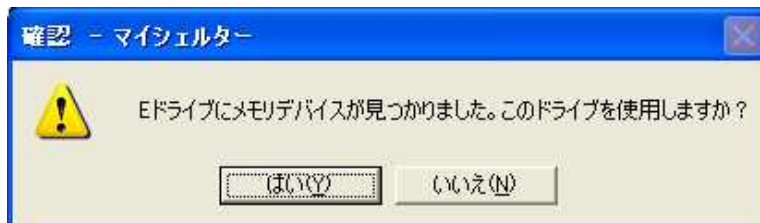
USB メモリなどのメモリデバイスまたはフロッピーディスクなどの外部デバイスとパソコンに暗号化・復号化に使用するキーを作成します。



- (1) KeyMaker.exe、MyShelter.exe をパソコンのハードディスク、またはメモリデバイスなどにコピーします。
(Decrypt.exe は、メモリデバイス紛失時など、必要なときにコピーしてください。)
- (2) USB メモリやフロッピーなどのメモリデバイスをパソコンに接続します。
- (3) エクスプローラを起動し、コピーしたプログラム「KeyMaker.exe」をダブルクリックして起動します。
- (4) 最初に鍵となるメモリデバイスを使用するドライブを選択します。

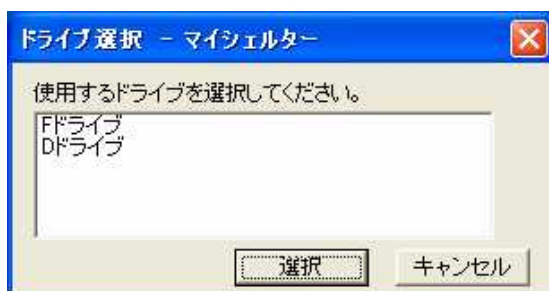
使用できるドライブがひとつのみの場合ドライブ使用の確認メッセージを表示します。

使用するドライブが正しければ「はい」ボタンをクリックしてください。



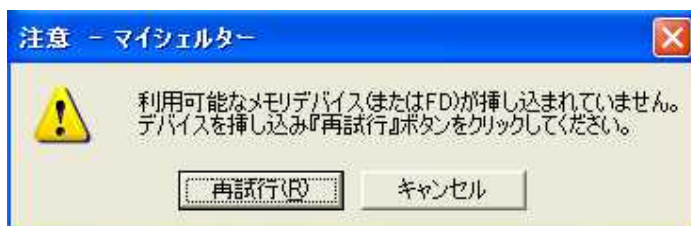
使用できるドライブが複数ある場合はドライブ選択画面を表示します。

使用するドライブを選択し、「選択」ボタンをクリックしてください。



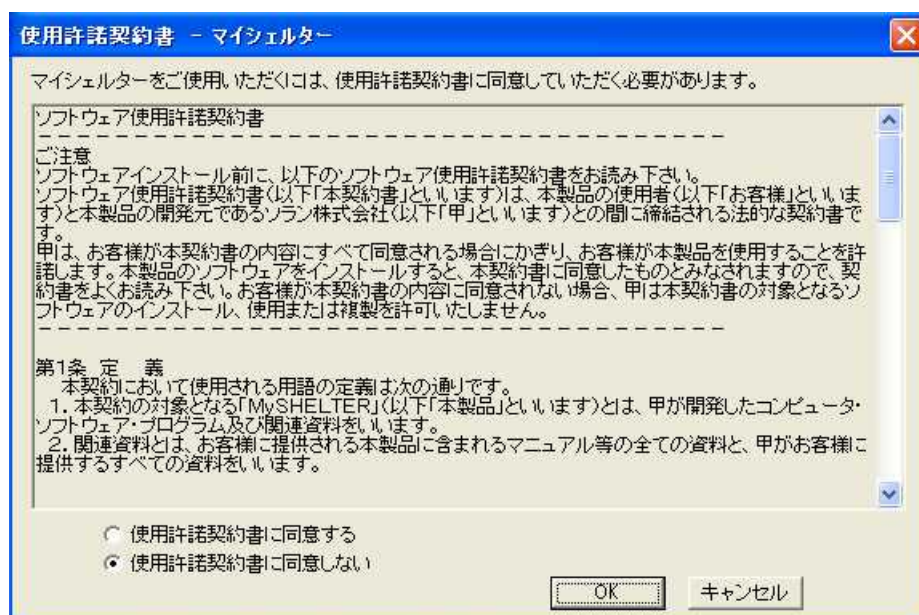
使用できるデバイスがない場合には、メッセージを表示します。

使用するデバイスを差し込んで「再試行」ボタンをクリックしてください。



(5) 使用許諾契約書画面が表示されます。

使用許諾契約内容を確認のうえ、同意いただける場合には「使用許諾契約書に同意する」を選択し「OK」ボタンをクリックしてください。



(6) ライセンスキー・ユーザコード・あなたのお名前を入力します。

ライセンスキー

提供された「マイシェルター・ライセンス」を入力します。

ユーザコード

任意の半角英数文字 8 桁を入力します。

あなたのお名前

あなたの名前を入力します。全角 32 文字まで入力可能です。

「後で登録する」ボタンをクリックすると期間限定版としてマイシェルターをご使用いただけます。

期間限定版として利用できる期間は一ヶ月です。

期間限定版からライセンス登録を行う場合には、「**KeyMaker.exe**」を起動すると、上記ライセンスキー入力画面が表示されますのでライセンス登録を行ってください。

(7) キーの作成をします。

キー作成画面が表示されますので、処理選択より「キーを新規作成する」を選択し、あなたの「パスワード」を入力し、「OK」ボタンを押します。

- 処理選択 -

キーを新規作成する

最初にキーを作成する、キーを変更する場合などに選択します。

詳細はこの章「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。

パソコンのキーを削除する

キーを使用しなくなった、使用するパソコンを変更するなどキーを使用しなくなった場合に選択します。

詳細は「8.1. パソコンからあなたのキー情報を削除したい」を参照してください。

パソコンにキーをインポートする

他のデバイスに作成したキーを使用したい、一台のパソコンで複数のデバイスを使用したい場合などに選択します。詳細は「6.4. メモリデバイスのキー情報をパソコンに反映する」を参照してください。

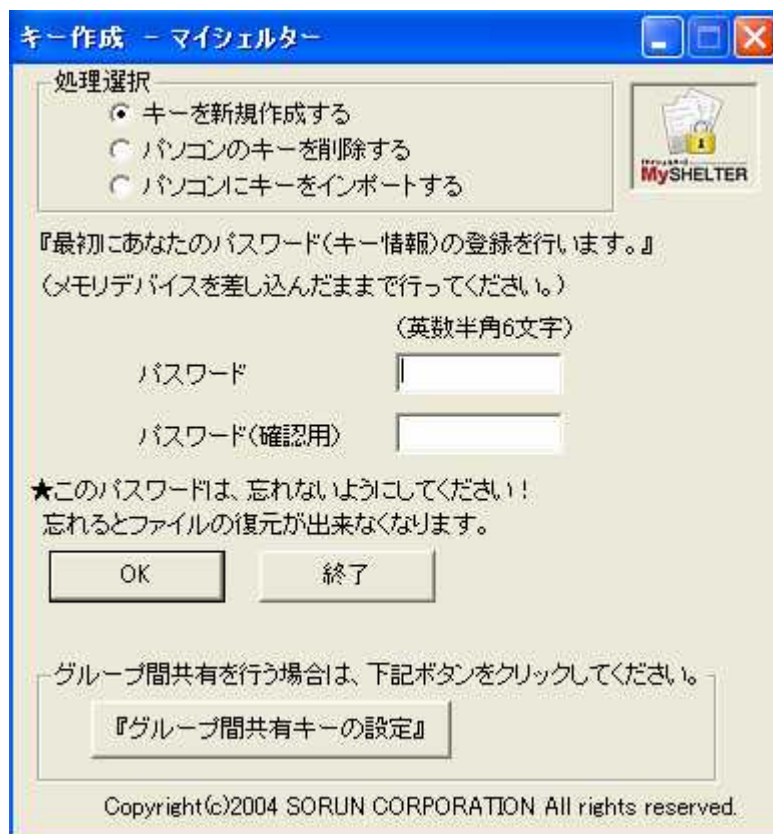
パスワード

パスワードを入力します。英数半角 6 文字を入力します。

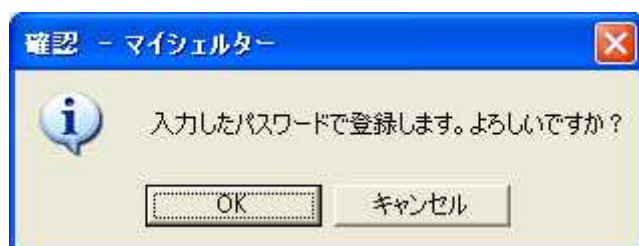
パスワード(確認用)

パスワードで入力した英数半角 6 文字を入力します。

☞ このパスワードは暗号化・復号化のキーとなります。絶対に忘れないようにしてください。



- (8) 登録確認メッセージが表示されます。入力したパスワードで登録する場合には「OK」ボタンをクリックしてください。パスワードを変更する場合には「キャンセル」ボタンをクリックしてください。
キー作成画面へ戻り、再度パスワードの設定が可能になります。



- (9) キー情報の登録が完了すると、登録完了メッセージが表示されます。



- (10) 既に、パソコンにキー登録が行われている場合、上書き確認メッセージが表示されます。

パソコンのキーを変更してよろしければ「OK」をクリックします。



上記の操作により、パソコンとメモリデバイスにキー情報が書き込まれます。

-- 注意 --

- ・このパスワードは、忘れないようにしてください。
- ・このパスワードを忘れると、キーをなくした場合などのファイルの復元が出来なくなります。
- ・パスワード設定を行った場合は、必ず「メモリデバイス内に保存されている**ユーザ情報設定ファイル**(pscrypt.ini)のバックアップを行うようにしてください。バックアップはフロッピー等に行ってください。
- ・該当パソコンのハードディスクへのバックアップは、セキュリティの観点より行わないことをお勧めします。

6.2. ユーザ情報設定ファイル(pscript.ini)の保存方法

- (1) ユーザ情報設定ファイル(pscript.ini)は、「読み専用」「隠しファイル」として保存されているため、見えないことがあります。その場合は最初にエクスプローラの「ツール」「フォルダオプション」を選択し、
「すべてのファイルとフォルダを表示する」をチェックし「OK」ボタンをクリックします。



- (2) 次に、KeyMaker.exe にて選択したメモリデバイスのドライブをエクスプローラで開きます。
pscript.ini ファイルをフロッピーなど別の外部デバイスにコピーしておくようにしてください。



-- 注意 --

・[pscript.ini]ファイルの内容を手動で変更した場合、MyShelter が予期しない動作をする場合があります。[pscript.ini]ファイルの内容は変更しないでください。

-- 暗号化・復号化時の注意点 --

- ・読み込み専用ファイル、隠しファイル、システムファイルは暗号化・復号化することはできません。
- ・暗号化・復号化を行うためには C ドライブと変換先ドライブに対象ファイルのサイズ以上の空き容量が必要です。
- ・一度に暗号化・復号化を行えるファイル数は 2560 ファイルです。

SendTo 機能により暗号化・復号化を行う場合などに、「指定されたデバイス、パス、またはファイルにアクセスできません。アクセス許可がない可能性があります。」のメッセージが表示され、一度に暗号化・復号化できるファイル数が上記のファイル数より少なくなることがあります。その場合は、MyShelter.exe を起動してドラッグ&ドロップにより暗号化・復号化を行って下さい。

6.3. ファイル、またはフォルダごと暗号化・復号化を行う

- (1) ファイルの暗号化または復号化を行うには、キーが書き込まれたメモリデバイスをパソコンに接続します。
- (2) エクスプローラを起動し、プログラム「[MyShelter.exe](#)」をダブルクリックして起動します。

「オプション設定」ボタン

オプション設定を行います。詳細は「7. オプション機能を使用する」を参照してください。

『暗号化』ボタン

ファイルの暗号化を行います。詳細は「(3) 暗号化を行う」を参照してください。

『復号化』ボタン

ファイルの復号化を行います。詳細は「(4) 復号化を行う」を参照してください。

『設定』

各設定の有効(チェック on)、無効(チェック off)を設定できます。

上書き確認する。

暗号化・復号化を行う場合に、暗号化・復号化を行うフォルダ内に同名のファイルが存在する場合に上書き確認を行います。この設定が無効(チェック off)の場合、確認を行わずに上書きを行います。

下位のフォルダも変換する。

暗号化・復号化でフォルダが指定された場合にその下位のフォルダ内のファイルも変換を行います。

元ファイルを削除する。

暗号化・復号化後に暗号化・復号化前のファイルを削除します。

場所を指定できるようにする。

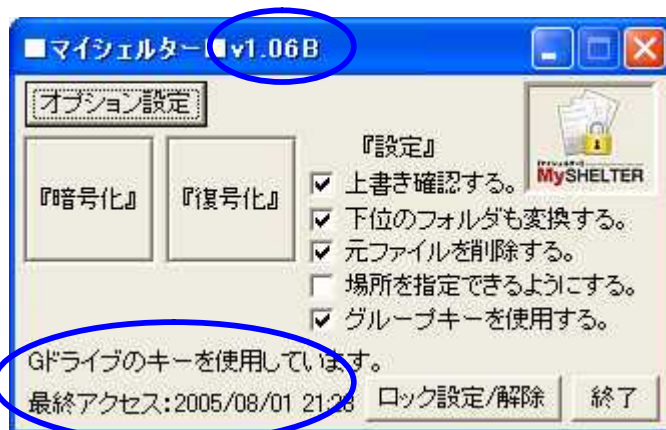
暗号化・復号化後に変換後ファイルを保存する場所を指定します。

詳細は「6.5. 暗号化・復号化先のフォルダを指定する」を参照してください。

グループキーを使用する。

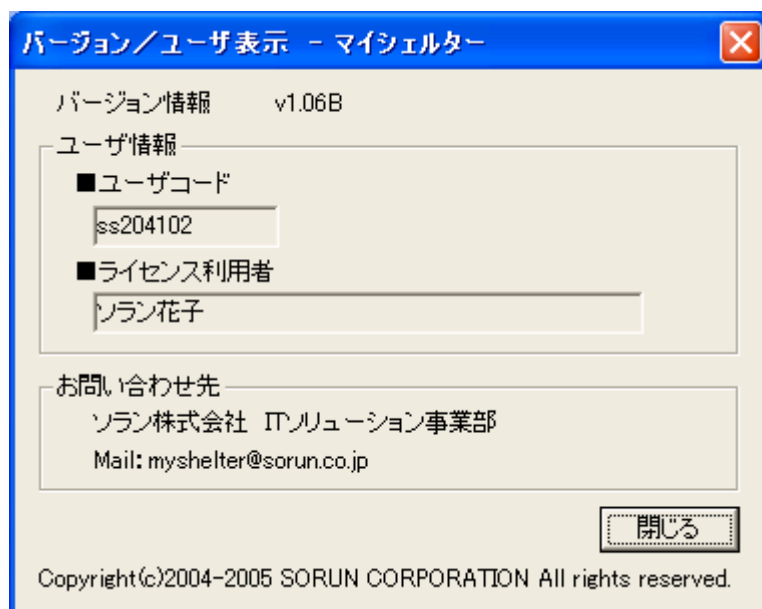
暗号化時にグループキーを選択できるようにします。

詳細は「6.6. グループ機能を使用する」を参照してください。



使用しているキーのドライブ情報と、前回マイシェルターを使用した日時を左下に表示しています。
NT4.0 専用の場合は、タイトルバーのバージョンは「v1.06B_NT4.0」と表示されます。

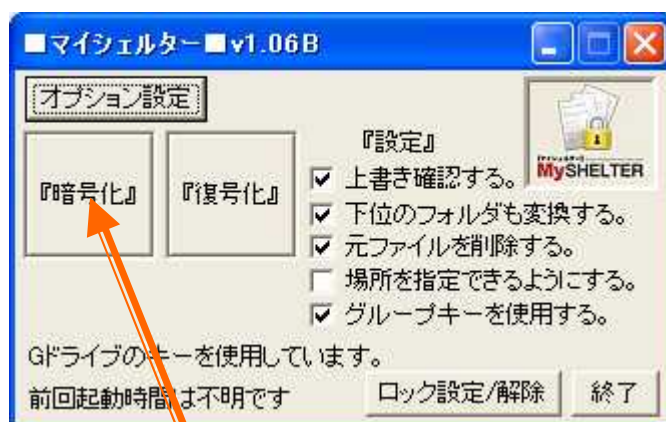
マイシェルターロゴを左クリックするとマイシェルターのバージョン情報が表示されます。



(3) 暗号化を行う

対象となるファイル、またはフォルダを『暗号化』ボタンにドラッグ＆ドロップします。(複数選択可能)

『暗号化』ボタンをクリックし対象ファイルを選択することも可能です。



『設定』で「グループキーを使用する。」を有効にしている場合、グループキー選択画面が表示されます。

詳細は「6.6. グループ機能を使用する」を参照してください。

『設定』で「場所を指定できるようにする。」を有効にしている場合、変換先フォルダ選択画面が表示されます。詳細は「6.5. 暗号化・復号化先のフォルダを指定する」を参照してください。

暗号化されたファイルの拡張子は変更されています。(cp3(ピリオド cp3)を付与します)

例)

MS ワード文書.doc → MS ワード文書.doc.cp3

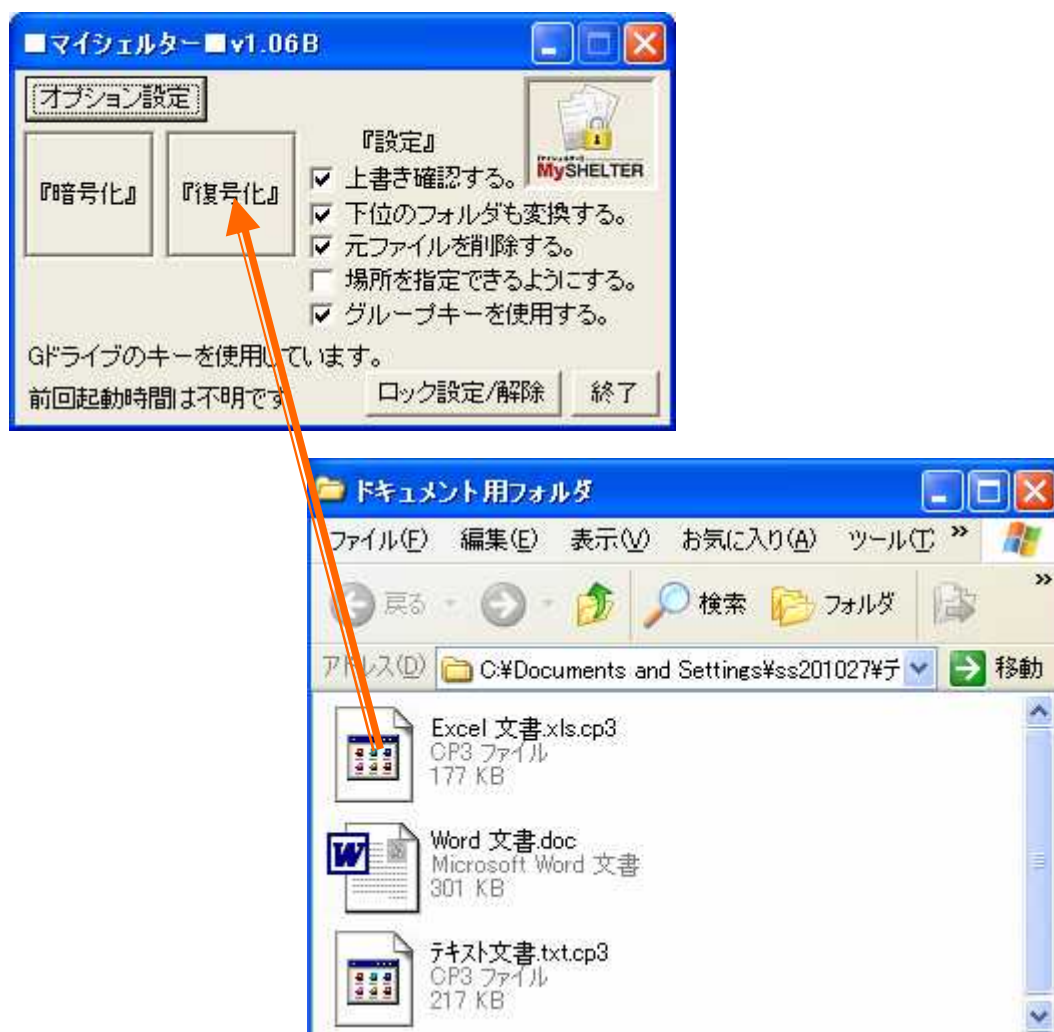
MS エクセル.xls → MS エクセル.xls.cp3

cp3 が付与されたファイルは、暗号化されたファイルです。

(4) 復号化を行う

対象となるファイルまたはフォルダを『復号化』ボタンにドラッグ&ドロップします。(複数選択可能)

『復号化』ボタンをクリックし対象ファイルを選択することも可能です。



『設定』で「場所を指定できるようにする。」を有効にしている場合は、変換先フォルダ選択画面が表示されます。詳細は「6.5. 暗号化・復号化先のフォルダを指定する」を参照してください。

復号化すると、変更されていた拡張子が元のファイルの拡張子に戻ります。

例)

MS ワード文書.doc.cp3 → MS ワード文書.doc

MS エクセル.xls.cp3 → MS エクセル.xls

cp3 が付与されたファイルは、暗号化されたファイルです。

6.4. メモリデバイスのキー情報をパソコンに反映する

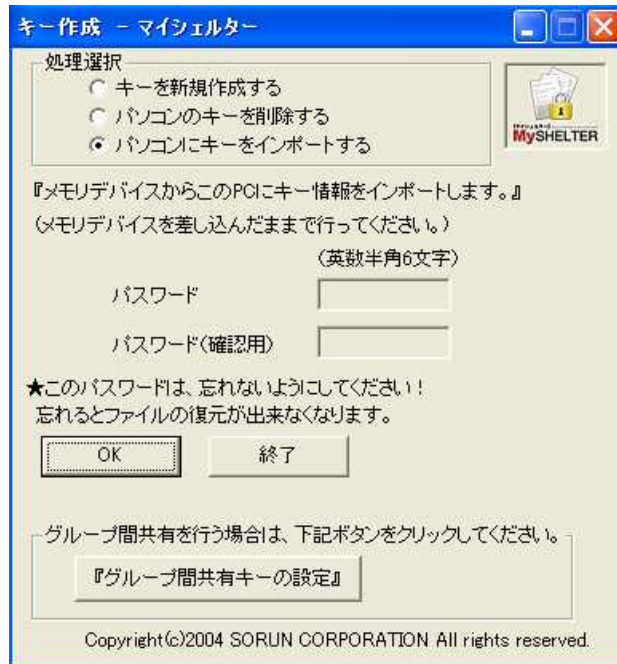
別のパソコンで作成したメモリデバイスのキー情報をパソコンにインポートすることができます。

例：パソコン A とパソコン B で共通して使用できるキーを作成したい場合

他のメモリデバイスで作成したキーを使用して暗号化・復号化したい場合

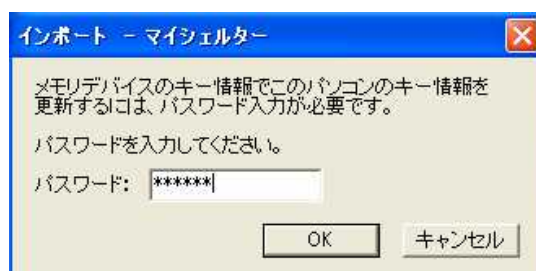
(1) 「KeyMaker.exe」をダブルクリックして起動します。

処理選択より「キーをインポートする」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

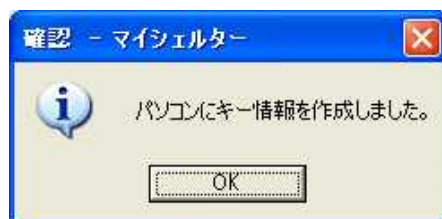


(2) パスワード入力画面が表示されます。

メモリデバイスのキー登録時に入力したパスワードを入力し「OK」ボタンをクリックします。



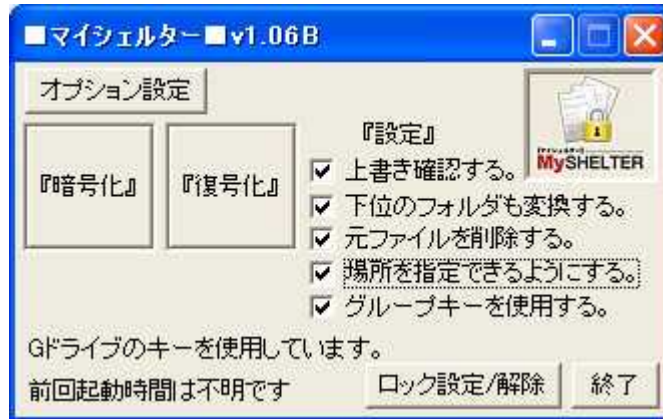
(3) 登録完了メッセージが表示されます。



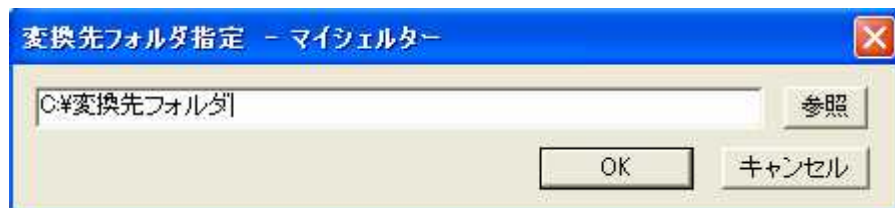
6.5. 暗号化・復号化先のフォルダを指定する

暗号化・復号化時に暗号化・復号化したファイルを保存する場所を指定できます。

- (1) マイシェルターの『設定』『場所を指定できるようにする。』を有効(チェック on)にします。



- (2) 設定が有効になっている場合、暗号化・復号化時に変換先フォルダ指定画面が表示されます。



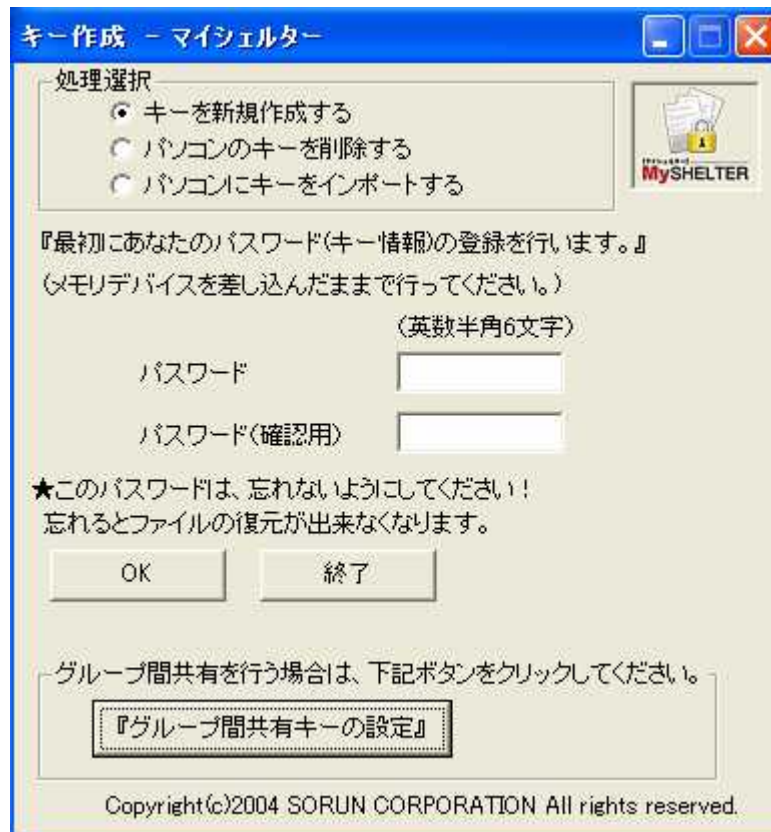
- (3) 「参照」ボタンで変換先フォルダを指定するか、変換先フォルダを直接入力してください。
「OK」ボタンをクリックすると変換を行い、指定したフォルダに変換したファイルが保存されます。

6.6. グループ機能を使用する

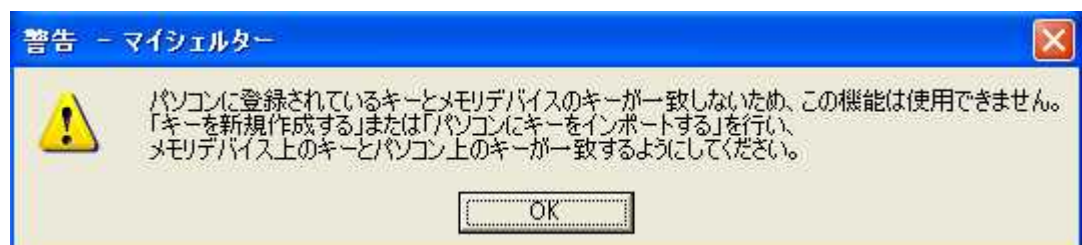
グループ間共有キーを作成し、暗号化したファイルをグループ間で共有します。

6.6.1. グループ間共有キーを作成する

- (1) 「KeyMaker.exe」をダブルクリックして起動します。
『グループ間共有キーの設定』ボタンをクリックします。



パソコンに登録されているキーとメモリデバイスのキーが一致しない場合以下のメッセージが表示されます。キーを新たに作成するかメモリデバイスのキー情報をパソコンにインポートしてください。インポートの詳細は「6.4. メモリデバイスのキー情報をパソコンに反映する」を参照してください。



- (2) グループ間共有キー作成画面が表示されます。グループ名、パスワード、パスワード(確認用)を入力し「OK」ボタンをクリックします。

グループ名

グループ名を入力します。全角 15 文字まで入力可能です。

(グループ名の先頭には半角スペースは使用できません。)

パスワード

パスワードを入力します。英数半角 6 文字を入力します。

パスワード(確認用)

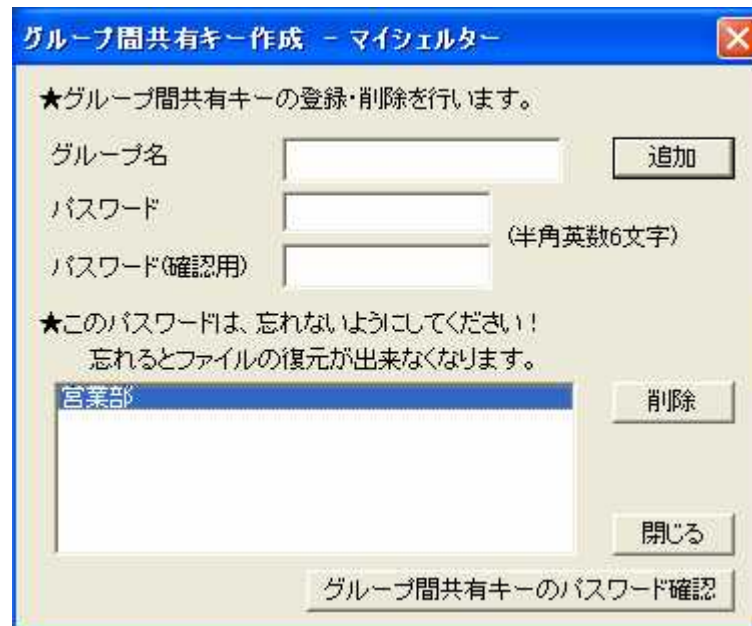
パスワードで入力した英数半角 6 文字を入力します。

☛ このパスワードは暗号化・復号化のキーとなります。絶対に忘れないようにしてください。

- (3) グループ間共有キーが追加され一覧に表示されます。
グループは最大 20 グループまで登録可能です。

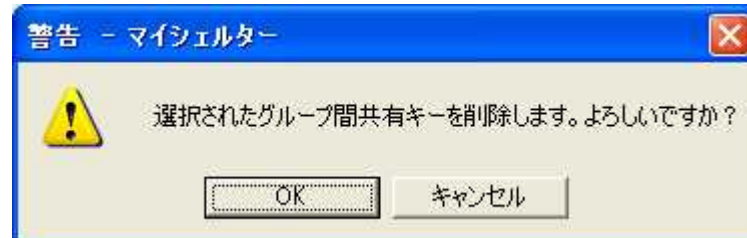
6.6.2. グループ間共有キーを削除する

- (1) 削除対象のグループを一覧で選択し「削除」ボタンをクリックします。



- (2) 削除確認メッセージが表示されます。

「OK」ボタンをクリックすると、グループ間共有キーが削除されます。



6.6.3. グループ間共有キーを変更する

グループ間共有キーを変更する場合は、該当するグループ間共有キーを削除し、再度追加を行ってください。

6.6.4. グループ間共有キーのパスワードの確認をする

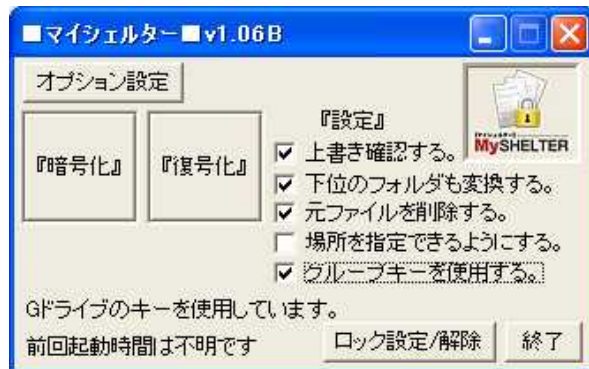
- (1) グループ間共有キー作成画面で「グループ間共有キーのパスワード確認」ボタンをクリックします。

- (2) パスワードの確認画面が表示されます。個人キーのパスワードを入力し「OK」ボタンをクリックしてください。

- (3) グループ間共有キーのパスワード確認画面が表示されます。
「グループ名:パスワード」の形式で一覧表示されます。

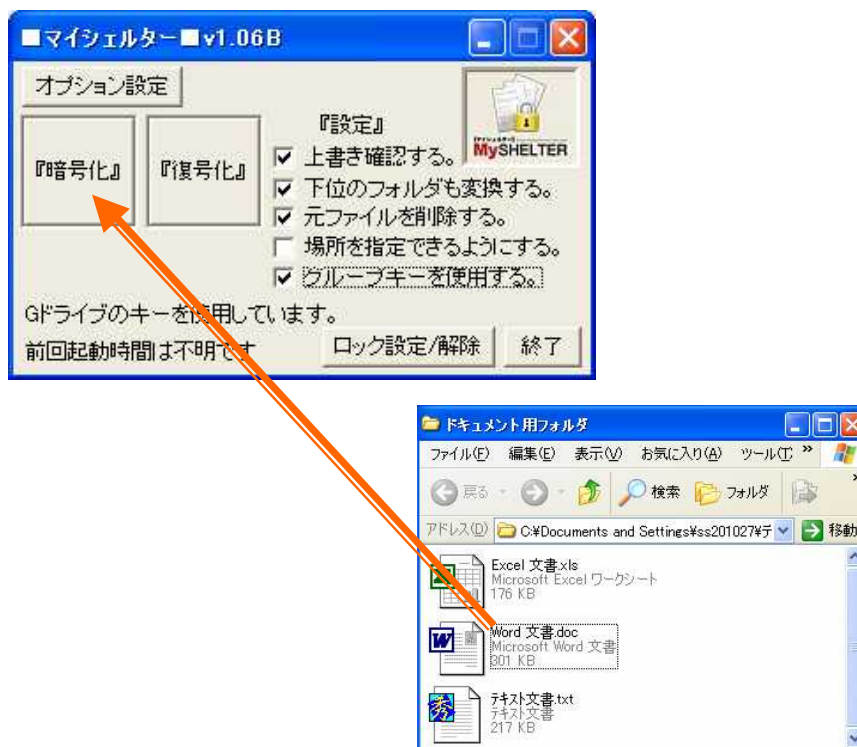
6.6.5. グループ間共有キーを使用する設定を有効にする

- (1) マイシェルターの『設定』『グループキーを使用する。』を有効(チェック on)にします。
初期状態は有効(チェック on)になっています。
グループ間共有キーを使用しない場合は、無効(チェック off)にします。



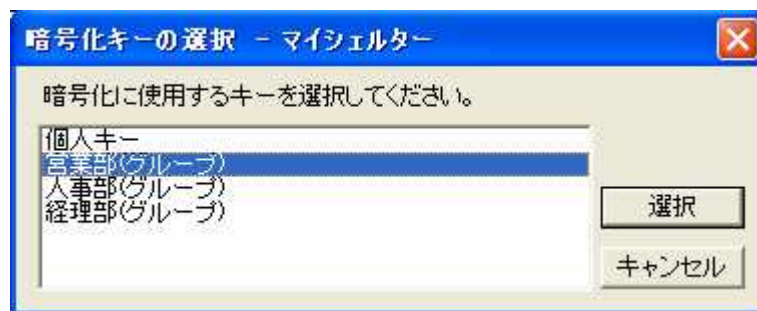
6.6.6. グループ間共有キーを使用して暗号化する

- (1) 「グループキーを使用する。」設定が有効になっている状態で暗号化を行います。

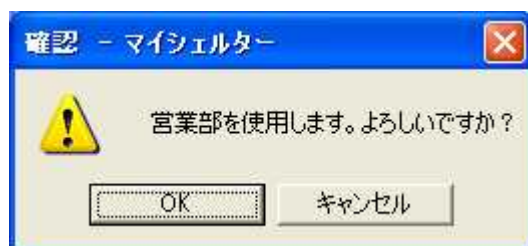


- (2) 暗号化に使用するキーを選択する暗号化キーの選択画面が表示されます。
使用するグループ間共有キーを選択し「選択」ボタンをクリックします。
「個人キー」を選択した場合はグループ間共有キーを使用せず、個人キーで暗号化します。
➡ **グループ間共有キーが設定されていない場合も暗号化キーの選択画面が表示されます。**
この場合は個人キーのみ表示されます。グループ間共有キーの作成は「6.6.1. グループ間共有

キーを作成する」を参照してください。



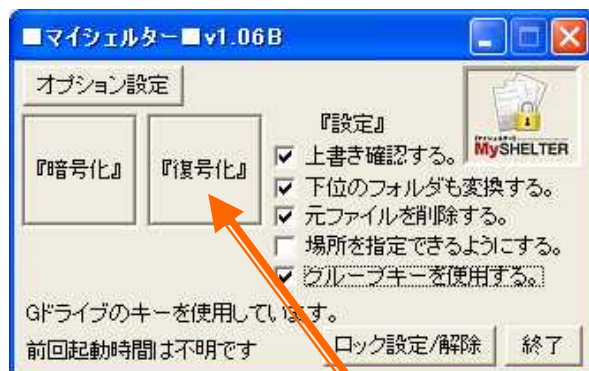
- (3) 使用する暗号化キー確認メッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると選択されたグループ間共有キーで暗号化されます。



6.6.7. グループ間共有キーを使用して復号化する

- (1) 暗号化ファイルを復号化します。

☛ 復号化時は、復号化に使用するキーの選択を行う必要はありません。登録されているグループ間共有キーを自動検索し復号化を行います。

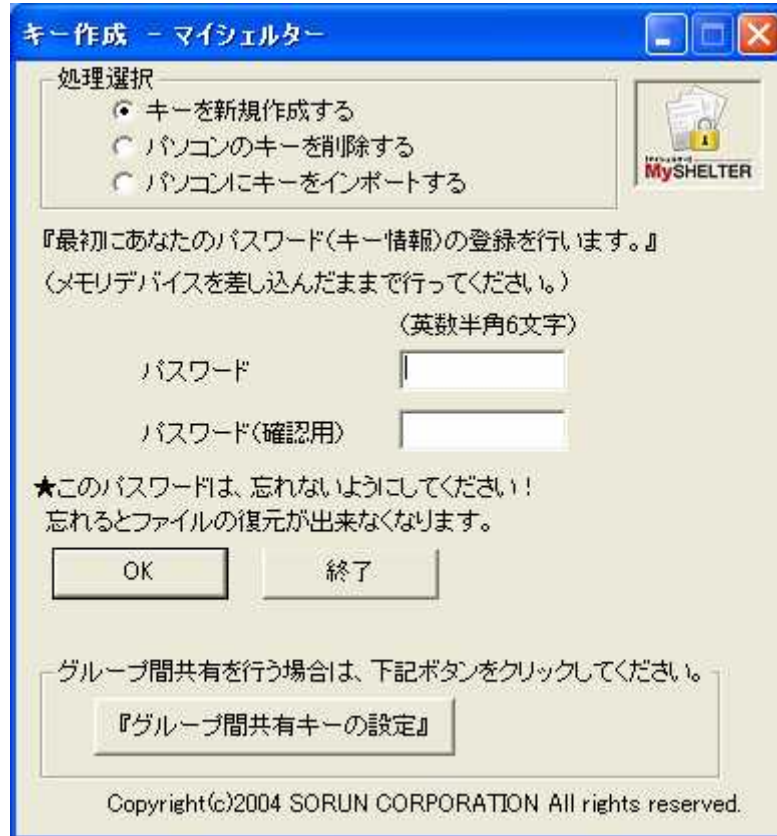


6.6.8. グループ間共有キーの再作成をする(キー新規作成時)

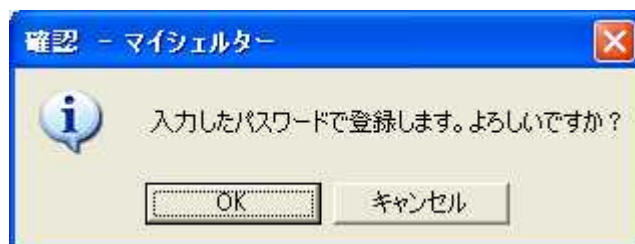
キーの新規作成時にメモリデバイスにグループキーが登録されている場合、グループ間共有キーの再作成を行う必要があります。

- (1) 「KeyMaker.exe」をダブルクリックして起動します。

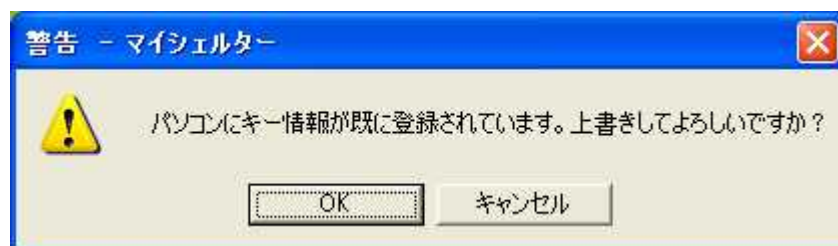
「6.1. あなたのキーを作成します」と同様にキーの新規作成を行います。



- (2) パスワード登録確認メッセージが表示されます。



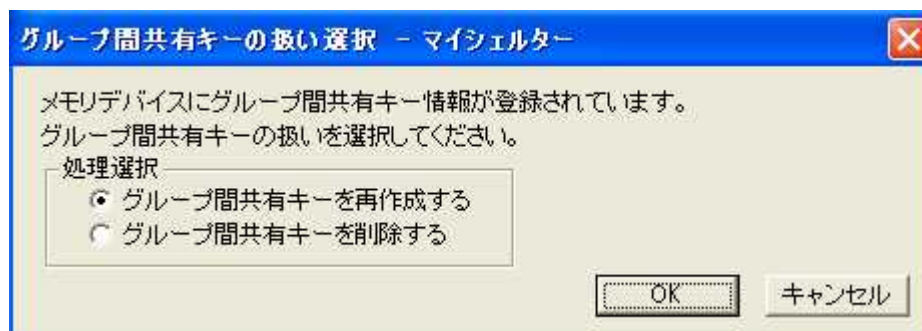
既に、パソコンにキー登録が行われていると、上書き確認メッセージが表示されます。



(3) グループ間共有キーの扱い選択画面が表示されます。

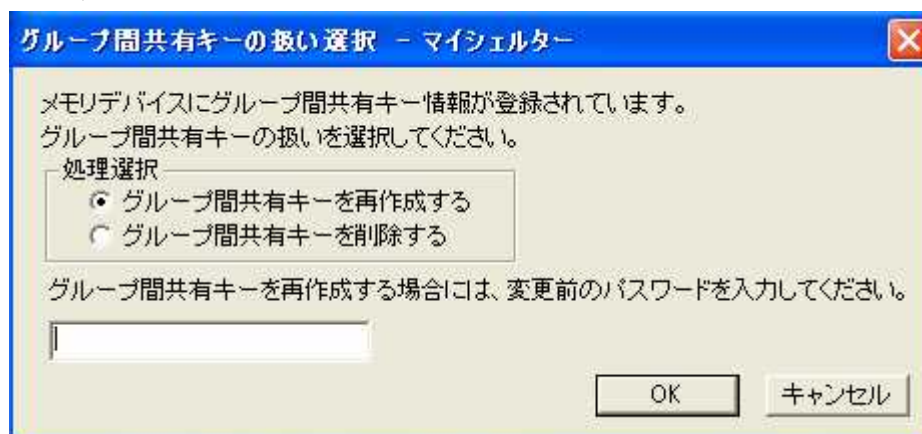
「グループ間共有キーを再作成する」を選択すると、グループ間共有キーの再作成を行います。

「グループ間共有キーを削除する」を選択した場合、グループ間共有キーは削除されます。



パソコンにキー情報が登録されていない場合、パソコンのキー情報がメモリデバイスのキー情報と一致しない場合、マイシェルターがロックされている場合などにグループ間共有キーの再作成時に変更前のパスワード入力が必要な場合があります。

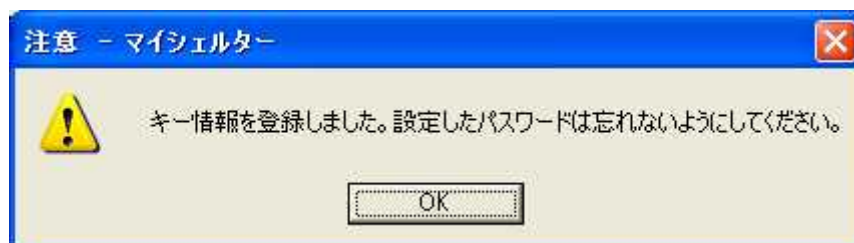
パスワード入力が必要な場合、グループ間共有キーの扱い選択画面(パスワード入力あり)が表示されます。



変更前のあなたのパスワードを入力し「OK」ボタンをクリックしてください。

(「グループ間共有キーを削除する」を選択した場合にはパスワードを入力する必要はありません)

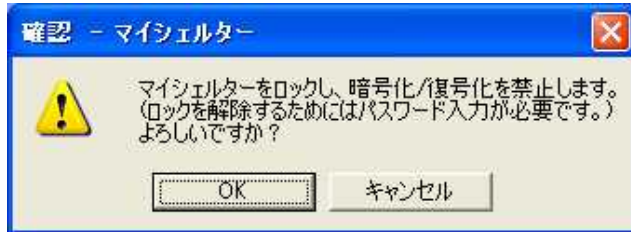
(4) キー情報登録が終了します。(グループ間共有キーの再作成は終了です。)



6.7. マイシェルターの暗号化・復号化機能をロックする

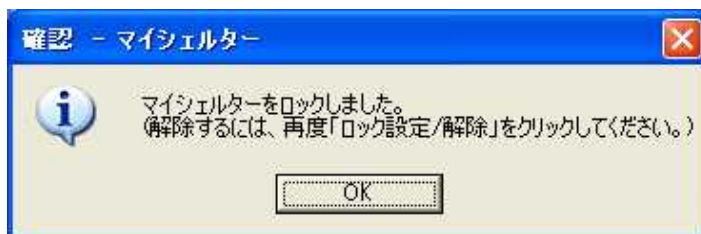
メモリデバイスと、パソコンを一緒に持ち歩く場合などの安全性を高めるために、マイシェルターの暗号化・復号化機能をロックすることが出来ます。

- (1) マイシェルターの「**ロック設定/解除**」ボタンをクリックします。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

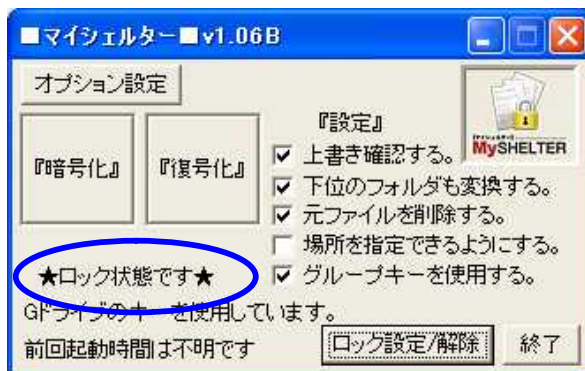


- (3) マイシェルターがロックされます。

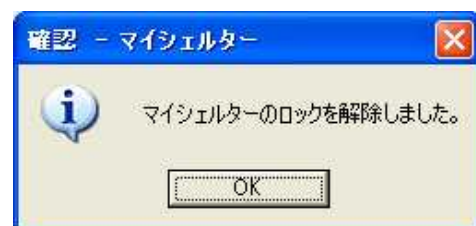
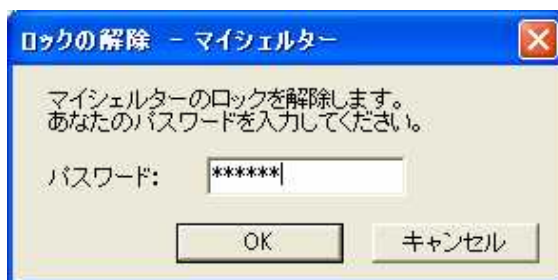
👉 **次回起動時よりロックされた状態となります。**



ロックされている場合には画面上にロック状態であることを表示します。



- (4) ロック状態を解除するには、再度マイシェルターの「**ロック設定/解除**」ボタンをクリックします。
あなたのパスワードを入力することで、ロック状態を解除できます。
(パスワードを 3 回間違えるとアプリケーションは強制終了します。)

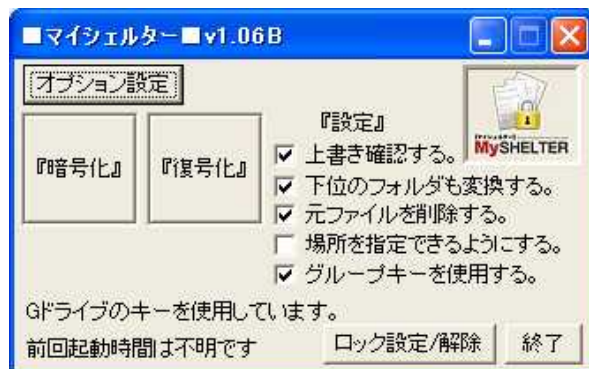


7. オプション機能を使用する

マイシェルターのオプションを設定できます。

オプションによりパソコンに SendTo 設定、ファイルの関連付け設定を行うことができます。共有で使用しているパソコンなどでパソコンの設定を変更したくない場合には、使用後に設定を無効にすることをお勧めします。

- (1) マイシェルターの「オプション設定」ボタンをクリックします。



- (2) オプション設定画面が表示されます。

オプションを設定します。設定したいオプションを有効(チェック on)にし、「OK」ボタンをクリックしてください。

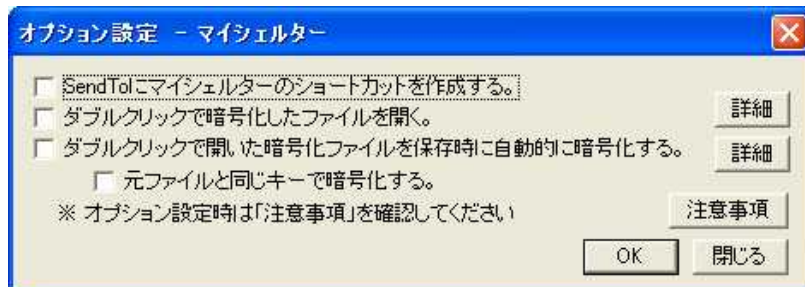
☛ 各設定については「7.1. 「SendTo にマイシェルターのショートカットを作成する」

「7.2. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」

「7.3. 「ダブルクリックで開いた暗号化ファイルを保存時に自動的に暗号化する」」を参照してください。

☛ 単独では設定できない項目があります。

☛ オプション設定時は必ず「注意事項」ボタンをクリックし、注意事項を確認してください。



-- ファイルの関連付け設定の注意点 --

- ・このオプションの変更を行うには、このパソコンの Administrator 権限が必要になります。
(設定はパソコンに対して行われるため、ログインユーザを変更しても、設定は変更されません。)
- ・ダブルクリックでファイルを開くためには C ドライブと変換先ドライブに対象ファイルのサイズ以上の空き容量が必要です。
- ・「ダブルクリックで開いた暗号化ファイルを保存時に自動的に暗号化する」オプションを有効にした場合は C ドライブに対象ファイルのサイズの 4 倍程度の容量が必要です。
- ・暗号化ファイルが別ファイルに関連付けられている場合、このオプションが有効にならない場合があります。対応方法は「8.13 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」オプションが有効にならない」を参照してください。
- ・ダブルクリックでファイルを開く場合にマイシエルターの各「設定」項目は設定を行ったマイシエルターを終了しないと反映されません。
- ・マイシエルター「設定」の「上書き確認する」の設定が無効(チェック Off)の場合、復号化後の同一名のファイルは自動的に復号化したファイルで上書きされます。
- ・暗号化された実行形式(拡張子が.exe)のファイルは復号化と同時に起動されます。実行形式のファイルはダブルクリックによる復号化を行わないことをお勧めします。
- ・ファイルの関連付けを行う際は必ず、マイシエルターのオプション設定から行ってください。詳細は「8.13 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」オプションが有効にならない」を参照してください。

7.1. 「SendTo にマイシエルターのショートカットを作成する」

ファイルの右クリック時に SendTo でファイルの「暗号化」、「復号化」を行えるようにします。

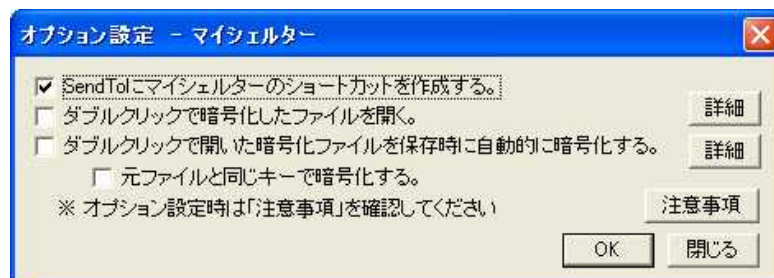
☛ この設定は、パソコンにログインしているユーザ毎に設定されます。

(ログインユーザが変更された場合は、再度設定をし直す必要があります。)

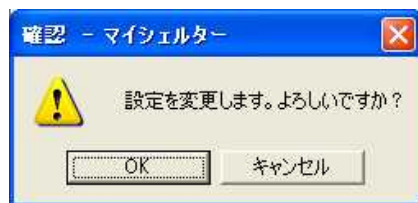
7.1.1. 設定方法

- (1) オプション選択画面で「SendTo にマイシエルターのショートカットを作成する。」を有効(チェック on)にし「OK」ボタンをクリックします。

設定を無効にする場合はチェック off し「OK」ボタンをクリックしてください。

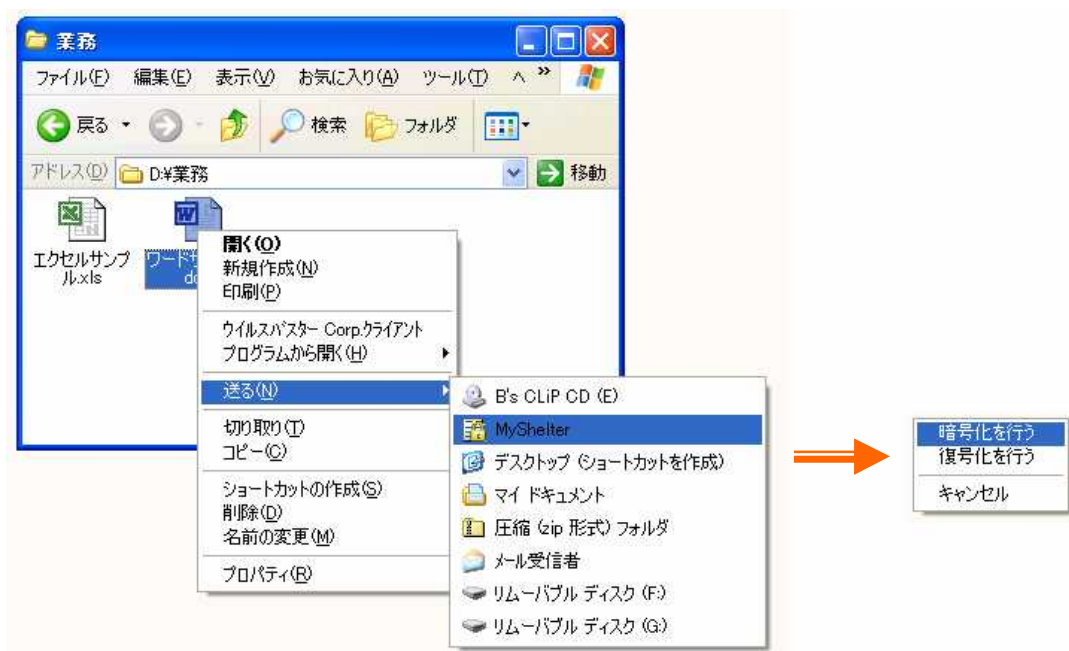


- (2) オプション設定確認メッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックすると設定が有効になります。



7.1.2. 使用方法

オプション設定で「SendTo にマイシェルターのショートカットを作成する。」オプションを有効にします。
ファイルを選択し、右クリックの一覧から「送る」を選択すると「送る」の中に「MyShelter」が表示されます。



「MyShelter」を選択するとポップアップメニューが表示されるので、「暗号化」又は「復号化」を選択します。
キャンセルする場合は、「キャンセル」を選択するか、メニューの外側をクリックしてください。

7.2. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」

ダブルクリックで暗号化したファイル(拡張子が cp3)を復号化して開くことができるようになります。

❖ ファイルのアイコン表示を更新するために、パソコンの再起動が必要な場合があります。

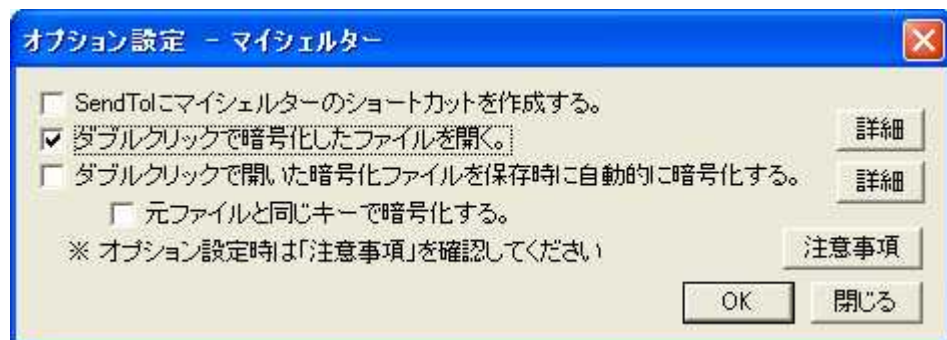
❖ Windows98 又は Windows Me でご利用の場合は、下記のことにご注意ください。

「ファイルを開くプログラムの選択」で拡張子に対応したアプリケーションを変更した場合、変更後のアプリケーションではなく変更前のアプリケーションで開かれる場合があります。

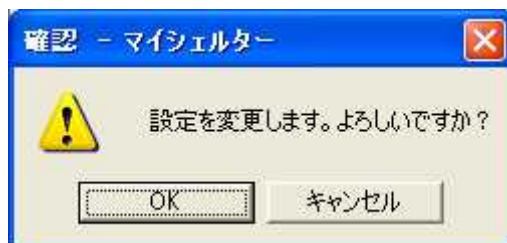
7.2.1. 設定方法

- (1) オプション選択画面で「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く。」を有効(チェック on)にし「OK」ボタンをクリックします。

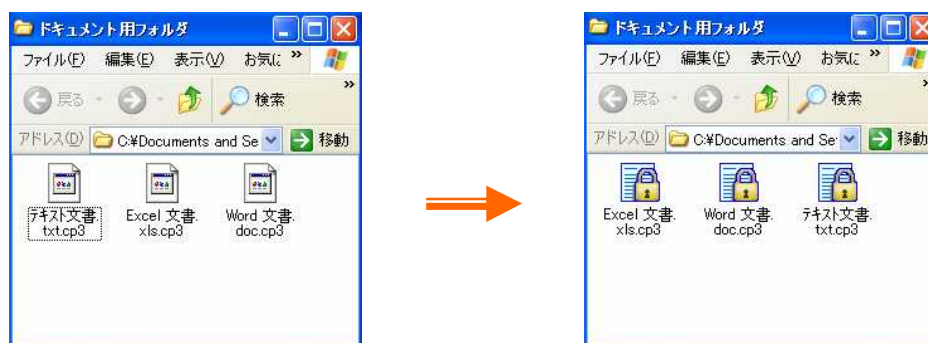
設定を無効にする場合はチェック off し「OK」ボタンをクリックしてください。



- (2) 設定確認メッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く。」オプションが有効になります。



オプション設定が有効になると暗号化されたファイルが以下のように表示されます。

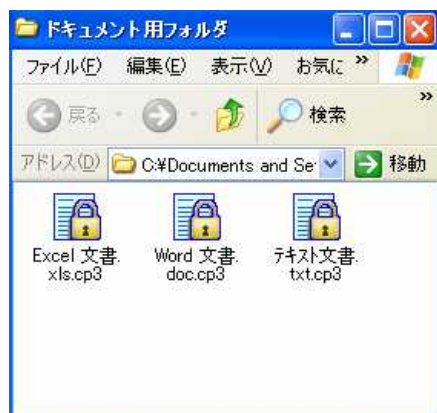


設定前

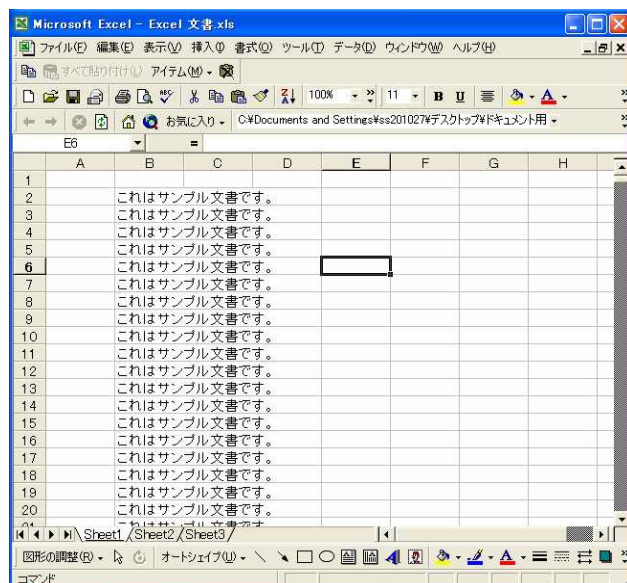
設定後

7.2.2. 使用方法

- (1) 暗号化されているファイルをダブルクリックします。



- (2) 暗号化されていたファイルが復号化され、ファイルが開きます。



7.3. 「ダブルクリックで開いた暗号化ファイルを保存時に自動的に暗号化する」

ダブルクリックで開いた暗号化ファイルを保存するときに、自動的に暗号化をすることができます。

- ❖ 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く。」が有効(チェック on)になっている場合に設定が可能です。
- ❖ ファイル名を変更して保存した場合は、自動的に暗号化することはできません。
- ❖ 一部の暗号化ファイルはこのオプションを有効にするとダブルクリックで暗号化されたファイルを開くことができません。お使いのパソコンの環境によって動作が異なります。
- ❖ 一部のアプリケーションでは既にアプリケーションが起動している場合、ファイルを開くことができません。
- ❖ 一部のアプリケーションでは、アプリケーション終了時に他のアプリケーションを呼び出すものがあります。それらのアプリケーションで作成されたファイルは、このオプションで自動的に暗号化することはできません。
- ❖ このオプションを有効にした場合、一時的に temp フォルダ()に復号化ファイルを作成して開きます。保存時に自動で暗号化し、元のフォルダ(場所指定の設定が有効の場合は指定フォルダ)に暗号化ファイルを保存します。暗号化して保存する前に Windows の強制終了や容量不足などの問題が発生した場合、編集中的のファイルは元のフォルダ(又は指定フォルダ)に保存されません。その場合は temp フォルダを参照してください。

temp フォルダはお使いのパソコンの環境により異なります。

例) Windows X P 初期設定の場合

C:\Documents and Settings\ユーザー名\Local Settings\Temp\tempXXXXX

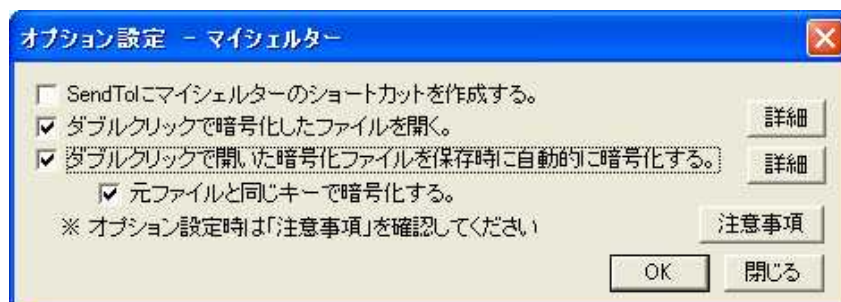
- ❖ 次の場合、ファイルを閉じる際に上書き確認を行いませんのでご注意ください。
 - ・ 暗号化ファイルをダブルクリックで開いて編集集中に、他の人が同一ファイルの暗号化キーのみを変更(ファイルの内容は変更せずに、復号化して別のキーで暗号化)した場合
- 共有ファイルの暗号化キーを変更する場合は、暗号化ファイルをダブルクリックで開いていないことを確認してから行うことをお勧めします。

7.3.1. 設定方法

オプション選択ダイアログで「ダブルクリックで開いた暗号化ファイルを保存時に自動的に暗号化する。」を有効(チェック on)にし「OK」ボタンをクリックします。

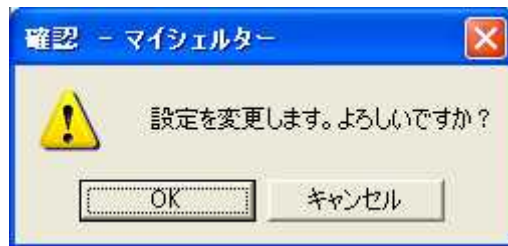
暗号化する場合のキーの扱いを「元ファイルと同じキーで暗号化する。」で指定できます。

設定を無効にする場合はチェック off にし「OK」ボタンをクリックしてください。



「オプション設定」の「元ファイルと同じキーで暗号化する。」が有効な場合(チェック on)、自動的に暗号化を行う時に使用する暗号化キーは、元の暗号化ファイルと同じ暗号化キーが使用されます。また無効(チェック off)の場合、自動的に暗号化を行う時に使用する暗号化キーは、「設定」の「グループキーを使用する」の設定が有効(チェック on)の場合にはファイル保存時に暗号化キーの選択画面が表示され、暗号化キーの選択が行えます。「設定」の「グループキーを使用する」の設定が無効(チェック off)の場合には自動的に個人キーが使用されます。

- (1) 確認メッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると設定が有効になります。

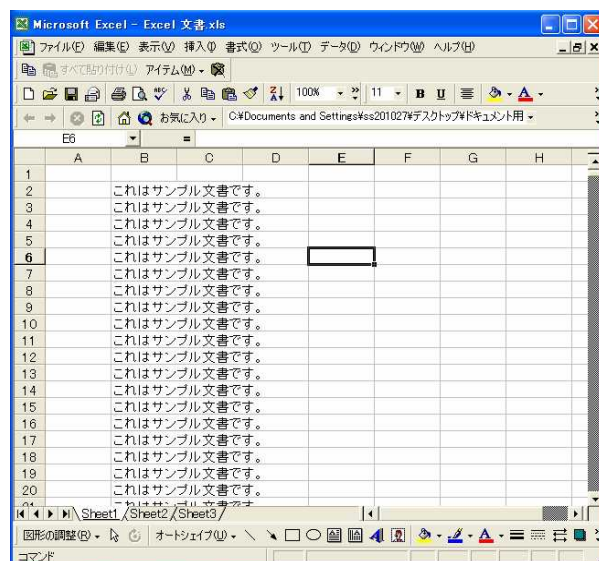


7.3.2. 使用方法

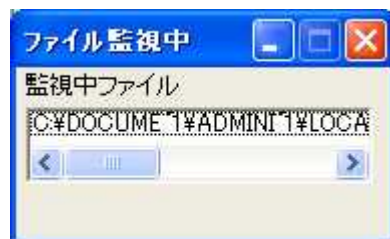
- (1) 暗号化されたファイルを復号化します。
暗号化されているファイルをダブルクリックします。



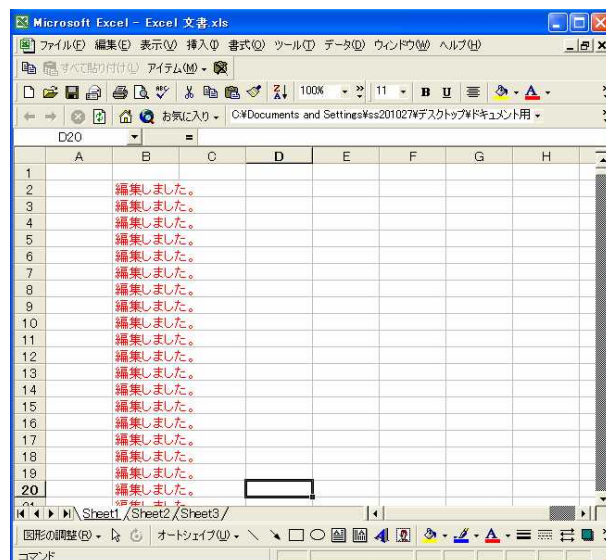
(2) 暗号化されていたファイルが復号化され、復号化されたファイルが起動します。



復号化され編集中のファイルを表示する画面が表示されます。



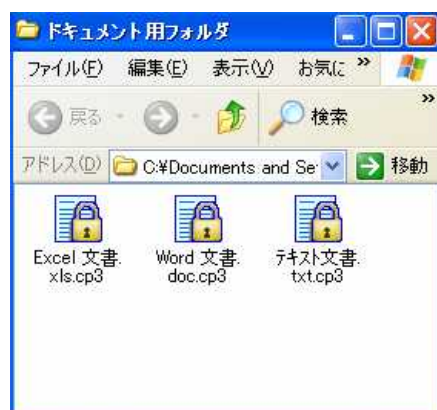
(3) ファイルを編集します。



(4) ファイル編集後、ファイルを閉じます。

編集したファイルは暗号化されて保存されます。

🔴 **ファイルを編集しない場合でも暗号化されます。**



🔴 **Excel などのアプリケーションではファイルを閉じただけでは暗号化できません。そのアプリケーションを終了すると暗号化されます。**

8. 困った時には・・・

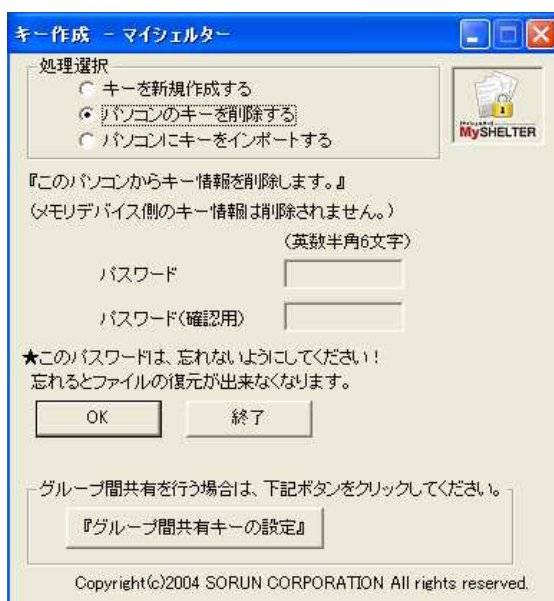
8.1. パソコンからあなたのキー情報を削除したい

2 台目のパソコンや、共有パソコンなどからあなたのキー情報を削除する場合

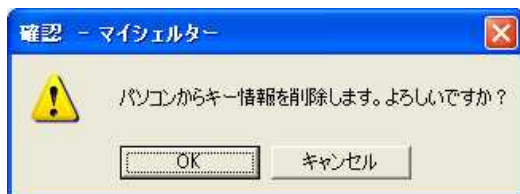
- (1) 「KeyMaker.exe」を起動します。
- (2) 処理選択から「キーを削除する」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

共有パソコンなどで、ファイルを復号化するような場合には、セキュリティ維持の観点から、使用後に必ず削除することをお勧めいたします。

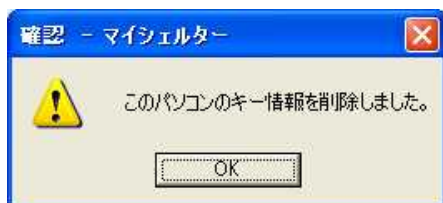
キーの削除を行うと、パソコン上のマイシェルターのオプション設定をすべて初期化することができます。



- (3) キー情報削除確認メッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックすることで、キー情報を削除することが出来ます。



- (4) 「OK」ボタンをクリックします。これで、パソコンのキー情報は削除されました。



8.2. メモリデバイスを紛失してしまった

「pscrypt.ini」(ユーザ報設定ファイル)のバックアップがある場合

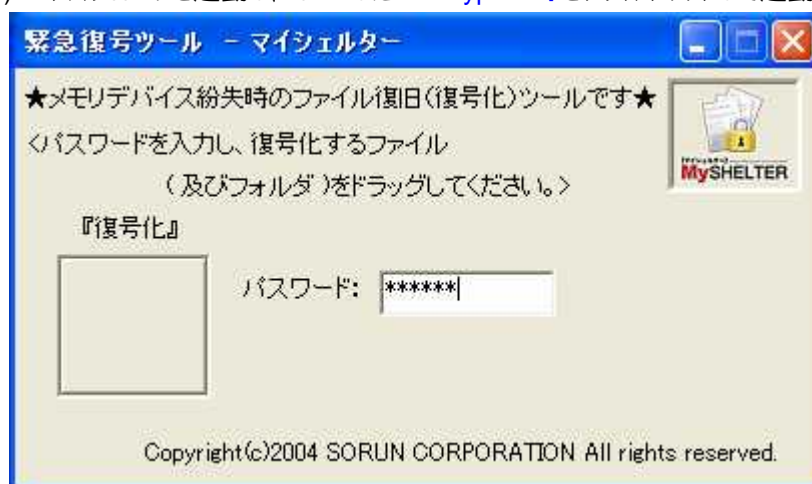
- (1) バックアップしてあった「pscrypt.ini」を新しくキーとするメモリデバイスにコピーします。
- (2) 「8.8. 他のパソコンで自分のメモリデバイスを挿して、暗号化・復号化したい」の手順を実行します。

「pscrypt.ini」(ユーザ報設定ファイル)のバックアップがない場合

「KeyMaker.exe」で指定したパスワードを入力して、過去に暗号化したファイルを復号化します。

ユーザ登録を行い「Decrypt.exe」(緊急復号化ツール)を取得してください。ユーザ登録の詳細は「9.3. ユーザ登録を行う」を参照してください。

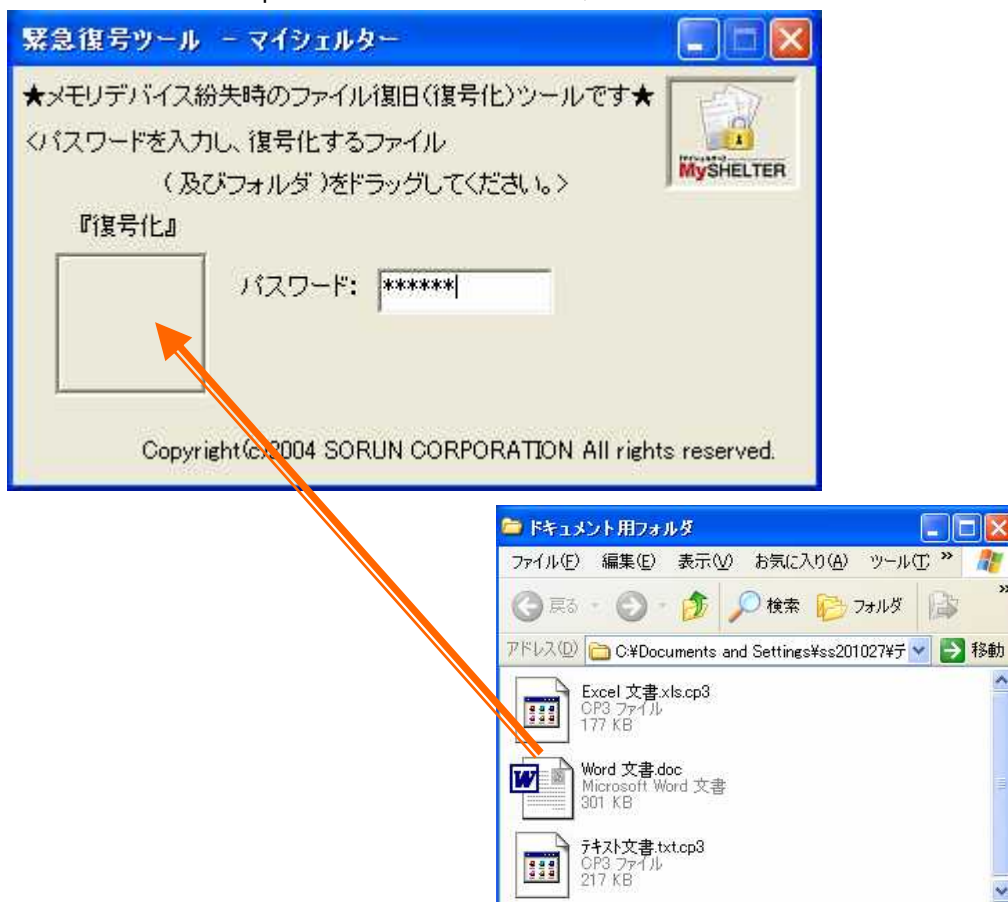
- (1) 「Decrypt.exe」をパソコンのハードディスク、またはメモリデバイス等にコピーしてください。
- (2) エクスプローラを起動し、コピーした「Decrypt.exe」をダブルクリックして起動します。



- (3) 暗号化時に指定したパスワードを入力してください。

☛暗号化の際に個人キーを使用していた場合は個人キーを入力し、グループキーを使用していた場合はグループキーを入力してください。

- (4) 以下のように、対象となるファイル、またはフォルダをドラッグ＆ドロップします。(複数選択可能)
暗号化された拡張子 cp3 のファイルが対照となります。



- (5) 復号化が終了後、新たにキーを作成してください。
作成方法は「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。
復号化後のファイルと同一名のファイルが存在する場合、無条件で上書きをおこないます。
また、復号元のファイルは削除されます。

8.3. メモリデバイスを紛失し、かつパスワードも忘れてしまった

パスワードを忘れてしまうと過去に暗号化したファイルは、残念ながら復元することはできません。
重要なファイルは、持ち歩く PC とは別の PC やセキュリティ対策されたファイルサーバーなどに、バックアップをとっておくことをお勧めします。

8.4. プログラムファイルを暗号化してしまった

プログラムファイル(.exe)等の場合、ソフトウェアの起動・動作に影響が出ますので、暗号化は行わないことをお勧めします。

8.5. 複数のメモリデバイスに同一のキーが作成されている

「pscrypt.ini」(ユーザ設定ファイル)をコピーして同一のキーを作成した場合

マイシェルターは、メモリデバイスとして認識されるドライブの若い順(C、D、...)でキーを検索し、この順で最初に現れたドライブにあるキーを利用します。(但し、フロッピーディスクは最後に検索されます。)

デバイスを差し替える、使用しないデバイスははずすなど、使用したいキーが格納されたメモリデバイスが最も若いドライブにくる様にしてください。

「KeyMaker.exe」で「キーを新規作成する」より同一キーを作成した場合

パソコン上のキーと一致するメモリデバイスが使用されます。

8.6. 「pscrypt.ini」(ユーザ設定ファイル)の内容を変更してしまった

メモリデバイス内にある「pscrypt.ini」を削除し、バックアップしてある「pscrypt.ini」をメモリデバイスにコピーしてください。

「pscrypt.ini」のバックアップがない場合は、「pscrypt.ini」を削除後、新たにキーを作成してください。

キーの作成については「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。

-- 注意 --

- ・「pscrypt.ini」ファイルの内容を手動で変更した場合、MyShelter が予期しない動作をする場合があります。「pscrypt.ini」ファイルの内容は変更しないでください。

8.7. 新規パソコンでグループを追加したい

- (1) 「KeyMaker.exe」を起動します。
- (2) 処理選択から「キーを新規作成する」を選択し自分のキーをパソコンに登録してください。
詳細は「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。
- (3) 「グループ間共有キーの設定」ボタンからグループ間共有キーを追加してください。
詳細は「6.6. グループ機能を使用する」を参照してください。

8.8. 他のパソコンで自分のメモリデバイスを挿して、暗号化・復号化したい

自宅のパソコンに会社と同一の環境を作成したい、共有パソコンで暗号化・復号化する環境を作成したい、暗号化したパソコンとは別のパソコンで復号化したい時など。

(1) **'KeyMaker.exe'** を起動します。

(2) 処理選択から「キーのインポートする」を選択し自分のキーをパソコンに登録してください。

詳細は「6.4. メモリデバイスのキー情報をパソコンに反映する」を参照してください。

☛ **パスワードの入力が必要になります。**

☛ **共有パソコン等で使用する場合、ファイル暗号化後に「パソコンのキーを削除する」処理を行いパソコン上のキーを削除することをお勧めします。**

8.9. パスワードが盗まれたので、変更したい

(既にインストールされているグループ間共有キーはそのままご使用いただけます)

パスワードが別の人に漏れてしまった場合などは、パスワードを変更することをお勧めします。但し、パスワードが変更されると、マイシェルターでは過去に暗号化したファイルは復号化できなくなります。ご注意ください。(変更前のパスワードで Decrypt.exe を使用し、復号化することは可能です)

(1) **'KeyMaker.exe'** を起動します。

(2) 処理選択から「キーを新規作成する」を選択し自分のキーをパソコンに登録してください。

詳細は「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。

登録の際、新しく作成したキーでグループ間共有キーを再作成するように選択してください。

☛ **新しいパスワードにする必要があります、ただし、変更前のパスワードで暗号化したファイルは復号化できません。**

☛ **パスワードが変更されると、マイシェルターでは過去に暗号化したファイルは復号化できなくなります。ご注意ください。(変更前のパスワードで Decrypt.exe を使用し、復号化することは可能です)**

8.10. パソコン上のキーが漏洩したため、パソコン上のキーを変更したい

(既にインストールされているグループ間共有キーはそのままご使用いただけます)

- (1) 'KeyMaker.exe'を起動します。
- (2) 処理選択から「キーの新規作成する」を選択し自分のキーをパソコンに登録してください。
詳細は「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。
登録の際、新しく作成したキーでグループ間共有キーを再作成するように選択してください。

👉 **グループ間共有キーを登録している場合、変更前の個人キー(パスワード)の入力が必要な場合があります。**

8.11. 新規パソコンで既存のメモリデバイスキーの内容をすべて破棄し、新しい環境を作りたい

- (1) 'KeyMaker.exe'を起動します。
- (2) 処理選択から「キーを新規作成する」を選択し自分のキーをパソコンに登録してください。
詳細は「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。
登録の際、グループ間共有キーを削除するように選択してください。

8.12. 新規パソコンで既存のメモリデバイスキーの内容のうち、グループだけを残して個人キーを変更したい

- (1) 'KeyMaker.exe'を起動します。
 - (2) 処理選択から「キーの新規作成する」を選択し自分のキーをパソコンに登録してください。
詳細は「6.1. あなたのキーを作成します」を参照してください。
登録の際、新しく作成したキーでグループ間共有キーを再作成するように選択してください。
- 👉 **グループ間共有キーを登録している場合、変更前の個人キー(パスワード)の入力が必要な場合があります。**

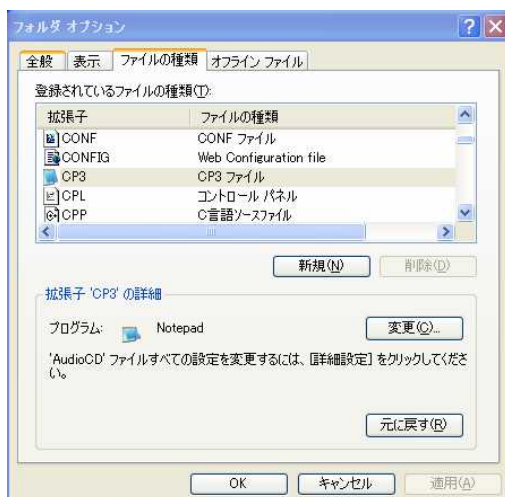
8.13. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」オプションが有効にならない

別のアプリケーションが起動される場合

暗号化ファイル(拡張子が.cp3)が別のアプリケーションに関連付けられています。ファイルの関連付けの変更を行ってください。

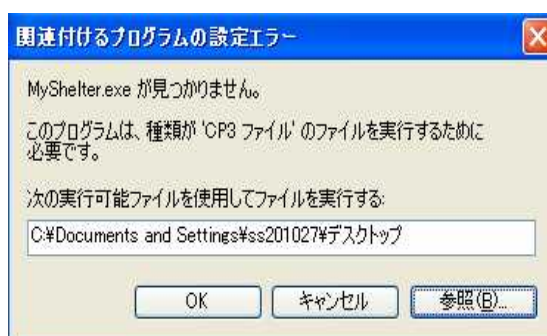
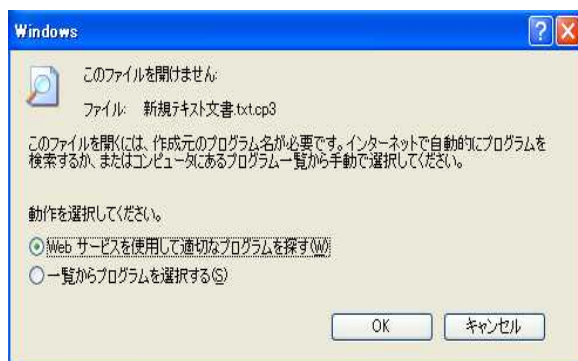
(1) エクスプローラの「ツール」「フォルダオプション」「ファイルの種類」を選択してください。

例) 暗号化ファイル(拡張子.cp3)が Notepad と関連付けられています。



(2) CP3 を選択し、「元に戻す」ボタンをクリックしてください。ファイルの関連付けが元に戻ります。

アプリケーションが起動されない場合



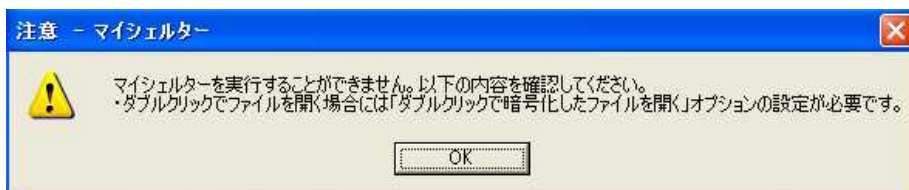
暗号化ファイル(拡張子が.cp3)の関連付けが行われていない、または MyShelter.exe の場所を移動したなどの場合に上記の画面が表示されます。この画面に従っての設定は**絶対**行わないでください。

MyShelte.exe を起動してオプション設定の「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」を有効(チェック on)にしてください。詳細は「7.2. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」」を参照してください。

☞ 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」オプションを有効にするために、パソコンの再起動が必要な場合があります。

万一、「アプリケーションが起動されない場合」で画面に従って、関連付けの設定を行ってしまった場合エラーメッセージが表示されますので、以下の手順に従って設定を変更してください。

・エラーメッセージ



・手順

- (1) MyShelte.exe を起動してオプション設定の「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」を有効 (チェック on) にしてください。詳細は「7.2. 「ダブルクリックで暗号化したファイルを開く」」を参照してください。
- (2) エクスプローラの「ツール」「フォルダオプション」「ファイルの種類」を選択してください。

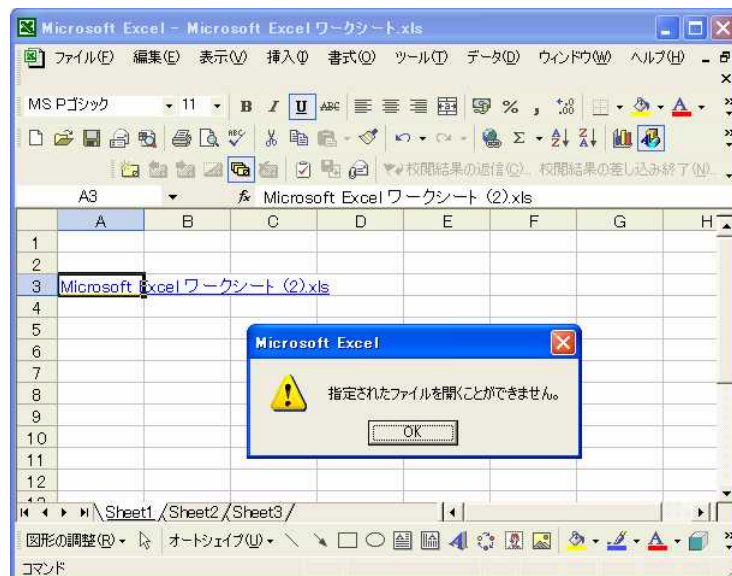


- (3) CP3 を選択し、「元に戻す」ボタンをクリックしてください。ファイルの関連付けが元に戻ります。

8.14. 暗号化ファイルをダブルクリックで開いた時にリンクファイルが参照できない

暗号化ファイルをダブルクリックで開いた場合、リンクファイルが参照できない場合があります。

例) Excel ファイルの場合



この場合は、対象のファイル及びリンクファイルを、ドラッグ&ドロップ、または SendTo により復号化してファイルを開いてください。

9. その他

9.1. 最新版のマイシェルターを取得したい

最新版のマイシェルターは以下の URL からダウンロードすることができます。

URL: http://www.sorun.co.jp/solution/si_shelter.html

既にライセンスを購入されている場合、小数点以下が異なるバージョンはライセンスの再取得なしでご利用いただけます。

9.2. 期間限定版からライセンス版に変更したい

(1) ライセンスが未取得の場合はライセンスを取得してください。

問い合わせ先は「10. 問い合わせ先」を参照してください。

(2) KeyMaker.exe を起動してライセンスの入力を行ってください。

詳細は「6.1. あなたのキーを作成します」の「(7) ライセンスの登録を行います。」を参照してください。

9.3. ユーザ登録を行う

ユーザ登録は同封の「ユーザ登録ファイル.txt」に記載して頂き、myshelter@sorun.co.jp へファイルを添付してお送り下さい。緊急復号化ツール「[Decrypt.exe](#)」を E-Mail でお送りしております。

9.4. セキュリティの警告を解除する

セキュリティの警告を解除する方法については、MicroSoft 社のサポートオンライン「インターネットからダウンロードしたファイルを実行したときに表示されるセキュリティの警告画面と、警告の解除方法」を参照してください。

URL: <http://support.microsoft.com/kb/884237/JA/>

10. 問い合わせ先

このソフトウェアに関する各種お問合せは、下記までメールにてお問い合わせください。

ソラン株式会社

E-MAIL: myshelter@sorun.co.jp

ダウンロードサイト: http://www.sorun.co.jp/solution/si_shelter.html



【マイシェルター】 Sorun security tool
MySHELTER

